

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600100		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 藤橋		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町西横山橋場南436-2		
自己評価作成日	平成27年12月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2192600100-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた自然豊かな場所に事業所があり、リビングから眺められる渓谷は四季の移り変りを楽しむことができる。地元の利用者様も多く、積極的に地元の行事(老人会、祭り、ラジオ体操、いび川マラソンの応援、報恩講等)に参加したり、公共施設やお店を利用することにより馴染みの関係を自然に継続している。利用者様が生活の楽しみが持てるように日常の家事や畑仕事を促したり、クラブ活動を通して心身の活性化につながるように工夫している。また、地元の診療所を協力医とさせてもらうことで馴染みの医師に日常の健康管理から看取りケアまで診ていただき利用者様の安心につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの窓からは、山岳地帯ならではの絶景を味わうことができる。利用者の多くが地元住民であり、地域や行政との交流の機会も多い。また、地域は高齢者が多いため、今後の生活への不安など相談事にも親身になって対応し、地元の信頼も厚い。協力医である診療所と連携を図り、健康維持に努め、終末期ケアにおいても充実した医療体制が確保できている。畑で採れた野菜を、利用者と共に調理し、食事を一緒に味わい、安心・安全な暮らしが営まれている。さらに、利用者が、調理、脳トレ、運動、唱歌の4つのクラブ活動に自由に参加することで、単調になりがちな日常生活に潤いをもたらしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を皆が意識できるように掲示したり、名札の裏に記入し会議の場で読み合い確認するなど意識付けに取り組んでいる(新任研修にも取り入れている) 日常的なケアの中で理念に基づくケアができるよう管理者を中心に話し合いを行っている。	理念(安全・信頼、地域密着、医療との連携、権利の尊重、心穏やかな介護)を共有スペースに掲げたり、名札に印刷して常に確認している。すべての職員が共有し、役割を意識づけ、心穏やかな介護を心がけて、地域密着型サービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ラジオ体操・盆踊り・お祭り・報恩講・文化祭・いびがわマラソン応援等)に参加させてもらっている。気軽に立ち寄っていただけるよう開放している為、なじみの方と話す機会も多く、日常的に交流ができている。	地域の一員として行事や清掃など積極的に参加できている。住民からは野菜の提供があったり、散歩やラジオ体操で気軽に会話を交わす間柄となっている。また、地区内の学園生ともお祭りなどで異世代交流ができ、楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動に利用者様と一緒に参加している。また、地域ケア会議にも参加し、介護相談をいつでも受付けていることを区長や民生委員の方にお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、高齢福祉課職員・区長・民生委員・利用者様家族に参加いただき、現状報告や取り組み等をお伝えしている。それぞれの立場からご意見ももらっている。介護相談や地域の状況など話し合いをしている。	会議では現状報告や課題への取り組み状況など話し合い、出された意見を大切に検討して、サービスの質の向上に役立させている。会議での情報から地元住民の状況を知り、冬期の短期利用など、地域密着の利点を生かした支援を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の高齢福祉課の会議や研修会に積極的に参加して連携を取っている。また、向かいに振興事務所があるため、相談や報告等積極的に伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	町の会議や研修会には必ず出席し、日ごろから連携を密にしている。また、揖斐川町全施設職員連絡会での研修内容など取り組み状況を伝えたり、事例の相談をし、担当課からも情報を得るなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を、外部の研修や全体会議で定期的に行い理解を深めている。介護方法を皆で検討することにより、拘束を行わないよう努めている。また、心理的な拘束についても会議の中で事例を出して検討している。	拘束とは何かを常に考え、身体的、心理的にも拘束しない介護を実践している。職員研修の中で、接遇拘束、虐待とそれぞれの項目に分けて深く学び、日常のケアの中で利用者の思いを大切にしながら接し、安全への配慮に怠りがない、見守り、声掛け、身体介護に取り組むことができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を、外部研修や全体会議で定期的に行い理解を深めている。職員の気持ちを大切に、相談しやすい雰囲気作りに努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修や施設での研修に積極的に参加して学ぶ機会を持ち理解を深めている。特に成年後見人制度は、必要と思われる場合にはご家族に活用を勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はゆとりある時間を設け、文章の読み合わせを行いながら質問に答えている。詳しい事項を伝え、理解・納得されているか確認をし、同意していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族からの要望や意見は職員全体に報告している。また、面会時には詳しい報告と共にご意見を伺っている。地元職員を採用し、地域との連携・社会貢献に努めている。	利用者の思いは日常の中での言葉や表情から把握し、毎月の近況報告書に家族の意見や要望を記入する欄を設けたり、面会時に尋ねたりして、日々のケアに反映できるよう努めている。また、利用者の行動に対して、家族から認知症に対する正しい理解が得られるよう、丁寧な説明を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員全員が意見交換をする時間を設けケアに反映させている。また、アンケートを基にした研修を行い皆の意欲が引き出せるよう工夫している。今年度は夜勤者研修も取入れ質の向上を目指している。	職員アンケートから、様々な研修(夜勤者研修、接遇、看取り、食中毒、事故、拘束など)を計画したことで、職員の意識が高まっている。また、法人内4ホームのそれぞれの取り組みを体得することからも、職員のモチベーションを高めることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員と気軽に話ができる関係作りに努め、個々のやる気や目標を把握している。労働時間を考慮したり実績や能力に合った給与にしたりと、向上心をもって仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修として年間15研修を計画実施しており、段階を経た研修やその時々現状を踏まえた勉強会を行っている。また、法人外の研修にも積極的に参加したり、毎日の仕事の中で管理者が指導、教育する取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の職員交流会や研修会に積極的に参加している。また、他施設に相互訪問し勉強会をするなどネットワークづくりに努めている。今年度は当法人が研修担当となり実践発表を行う機会もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、現在の心身状態等を事前に把握し、ご本人が安心して生活が始められるように努めている。また、他のサービス事業所からも情報提供をしていただき、スムーズに支援が始められるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に面談を行い、ご家族の不安や悩み、疑問、要望をお伺いし、関係作りに努めている。また、ご本人・ご家族の要望をケアプランに記載して、職員が思いを把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の心配事や不安、今後どのような生活を送りたいのか等を、ご本人・ご家族と話し合い、必要な支援を確認している。また、他のサービスが必要な時は、事業所の紹介やサービスの内容を説明して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの生活習慣を職員も習い、一緒に行っている。蒔の皮をむいたり、畑で採れた豆のすじを取ったり、料理を作ったり、掃除をしたりと暮らしを共にする認識を持って支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず担当職員がお話を伺い、相談しながら支援をするように努めている。また、近況報告書を郵送し、施設での様子や行事等をお知らせしている。ご家族の目線での気付きを伺い、より良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所で、入居前と変わらぬように地域の行事に参加している。また、入居者同士、幼馴染や近所の方といった繋がりがあため、交流も盛んである。馴染みの人も気軽に訪ねていただける雰囲気づくりに努めている。	入居者同士が従前からの付き合いがあり、日常の散歩や行事の際に、出会う人たちも馴染みの関係である。近隣へのドライブで農協の売店や、道の駅に出かけて旧知の友人に出会う楽しみもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士馴染みの関係の方が多いで、一日のうち自由に交流していただいている。また、楽しく過ごしていただけるように部屋の家具や雰囲気作りにも力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所のケアマネと情報交換している。また、いつでも相談にのれるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は、ご本人やご家族の要望(事前に意向書を記入していただく)を担当者会議で伺い作成している。また、認知症状で意向が把握できない場合もあるため、職員が代弁したり皆で検討している。	思いや意向は、日常の会話や表情から把握したり、家族の意向書や、家族交流会で確認している。また、介護記録からも利用者の思いを汲み取り、自立への意欲向上に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活や暮らし方を伺い、習慣や性格を早く把握できるように努めている。また、関係者(主治医・他事業所・ご家族・近所の方)からも情報提供をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを定期的に見直して現状の把握に努めている。とくに健康状態・食事・睡眠等は介護記録簿とは別に一覧表にして毎日記録し、職員が把握しやすいように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は必ずご本人・ご家族の意向を伺い、担当者会議を開催している。また、ご家族には事前に意向書を記入していただき、要望や質問、今のお気持ちを伺っている。ケアプランは介護記録簿に記載し、毎日経過を記録している。	担当者会議を開催し、本人、家族、関係者の意向や意見を尊重して計画書を作成している。日々利用者の様子をモニタリングし、状況の変化に応じて、迅速な計画の見直しをして、よりの確な自立支援を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や心身状態は、介護日誌・体調管理表に記録し、情報を共有している。また、毎日ケアプランの目標がなされているか確認している。特記事項は共通の連絡表に記入して迅速な情報把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さな限界集落の中にある施設として地域の中に溶け込み、これまでの関係を継続していただけるように努めている。また、ご家族や独居の方が雪の多い時に泊まりに来られるように部屋を設けてある。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で行われる行事(夏まつり・神社の大祭・いびがわマラソンの応援等)に参加していたことで喜びを感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回地元診療所の往診を受けている。持病のある方はその治療をし、新たな病気にかからないよう常に医師と連携を持つよう心掛けている。	選択は自由であるが、ほとんどの利用者が地元の協力医をかかりつけ医としている。往診のほか、週1回の訪問看護により、病状の悪化を防ぎ、早期発見にも努めている。緊急時には、24時間の支援体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護を受けている。その結果を施設の看護師に伝え、介護職員と情報を共通して日々の健康管理に役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が付き添いすぐに情報提供書を提供して安心して治療ができるよう努めている。日頃よりかかりつけの医師とコミュニケーションを密にし、早期発見をしている。退院時もカンファレンスを開催し情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明をして、いざ重度化や終末期に入る際は医師を交え再度話し合いの場を設け意思確認をしている。できるだけ家族に関わっていただけるように、24時間の連携を行いチームで取り組んでいる。	入居時に方針への同意を得、早い段階から本人、家族と話し合い、意向を把握して、その都度、方針を共有している。重度化、終末期に際しては、医療、介護が連携して、チームで看取り支援体制をとっている。また、家族支援のための宿泊室を設けている。	利用者が安心して最期の時を迎えられるよう、さらに学びを深め、より人としての尊厳ある看取り支援ができるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員がいつでも対応できるよう、研修を重ねている。特に、誤嚥、転倒、意識混濁時の対応は毎年繰り返し訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。特に火災訓練は消防署より職員を派遣していただき、消火や心臓マッサージ等の訓練を受けている。夜間を想定した訓練も行っている。	災害時の避難場所や職員の連携体制など、夜間を想定した訓練もできている。地震、水害を想定した地元の訓練にも参加し、地域との協力体制が確認できている。	ホームでの訓練に、地域の住民や隣接の振興事務所などに参加を呼びかけ、災害時における地域の協力体制強化への取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個室においてプライバシーを確保するため、入室時には必ずノックをしてから入り、対応には笑顔で接し、言葉使い及び口調は温和でゆっくりと話すことを心掛け、誇りと尊厳を傷つけないよう注意を払っている。	利用者情報の個別性や、守秘義務について十分理解し、責任ある管理を徹底している。接遇に関しても、研修を重ね、専門職としての自覚を持ち、一人ひとりの尊厳を大切にして、寄り添う声掛けができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様の希望や要望にその都度耳を傾け、できる限りその要望に応えられるよう努力している。即答できない場合は、相談する時間をもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々が希望する生活を支援するように努力し、その方の生活ペースを乱さないようにして、心落ち着けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択は利用者様にしてもらい、おしゃれを楽しめるようにコーディネートのお手伝いをしている。乱れや汚れがあった時にはその都度直している。特に着替えをする時には他の方の目に触れないよう個室にて行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はできるだけ同じ時間帯に出し、生活リズムを一定している。希望に合わせて献立を考えたり、一緒に料理をして出来立てを味わっていただいたりと楽しみが持てるように工夫している。常に温かい食事が食べられるよう心掛けている。	庭の畑でとれた野菜や、近所からの頂きものを利用して、3食手作りの食事を提供している。時には芋の皮むきを手伝い、調理中も匂いを感じながら、楽しく過ごしている。また、調理クラブによる献立を全員で味い、利用者にとって楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の要望や食欲に合わせて、バランスが良く、消化の良い物を提供している。毎日の摂取量を確認し、健康状態を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭には注意しており、ご自分でケアできる方には声掛けをし、口臭及び義歯の清潔を心掛けている。必要にあわせて歯科受診もしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレでの自立を目指して、個々の排泄パターンを把握し早めの声かけ誘導に努めている。入居時の排泄習慣を保持している方が多く、自尊心の維持に繋がっている。	利用者の表情の変化を見逃さず、排泄リズムを把握して声掛け、トイレ誘導している。不穏時も常に見守り、安全の確保を徹底し、意思を尊重して、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が多く見られる方の飲食物の摂取状態や運動の有無、排便の記録をつけ参考にしている。状況によっては主治医と相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は気分転換にもなり楽しみの一つでもあるので、一人ひとりに合った対応で気分良く入浴していただいている。女性の利用者様は髪の手入れ、男性の利用者様はひげの手入れ等で喜んでいただいている。	週2回を基本とし、個浴でゆっくりと入浴を楽しんでいる。体調や気分などにより、足浴やシャワー浴、清拭など柔軟に対応している。入浴を好まない利用者にも、楽しみが持てるように声掛けなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠休息の意義を理解し、生活習慣、生活リズムに応じた支援をしている。眠れない時は温かい飲み物や会話、寝具の調整等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のことをしっかりと知り、服薬の目的を理解する。飲み忘れ、時間帯、他の方が服薬しない等、責任を持って対応している。服薬により副作用がないかも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり楽しく過ごせるように好みや役割分担等で生活への充実を支援している。室内レク、日常の家事等のできることをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への外出で、地域の方との触れ合いや自然と接することができるよう努めている。いつもと違う場所への行動は、ご家族や地域の方のご協力の下に行い、利用者様の感動や喜びとなっている。	月1回はドライブに出かけ、初詣や桜・紅葉・ユリの花見、芋ほり、秋祭りなど季節を堪能している。日常は近くの神社や、喫茶店、農園などに出かけて地域住民との触れ合いを楽しんでいる。また、近くの自宅へ同行することもある。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に一度は、地元の商店や道の駅のレストラン・売店に利用者様と訪れ、食事や買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、その都度電話連絡や手紙等のやり取りを支援している。年末にはご自分で年賀状作りをしてもらい、馴染みの方とやり取りされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所(リビング・廊下等)にはいつも生花を活けている。また、心地良い音楽を流したり写真を飾ったり間接照明を使用する等して落ち着いた雰囲気づくりに努めている。どこでも座ることができるように、ソファをいくつも配置しゆったりとした空間を作っている。	居心地の良い広いスペースには、ソファが置かれ、モノクロの写真と和洋の調度品が飾られている。玄関を入ると音楽が流れ、窓からは四季折々の山々や溪谷の風景が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは皆様にトランプをしたり、歌を歌ったりして楽しんでいる。また、ソファにゆったり座り読書をされている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には季節の花を飾ったり、個々に馴染みの物を持ってきて部屋作りを楽しんでいる。また、家具の配置も生活に合わせ工夫している。心地よく暮らせるように清潔にしている。	各居室のドアの色を変えて、利用者が自室を認識しやすいように工夫されている。備え付けのベッド、ソファ、タンス、机は自由に配置され、好みの飾りや、仏壇などを持ち込み、利用者が居心地よく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方に無理のないようできる事をさせていただいている。庭の草取り、テーブルふき、洗濯たたみ等気の向いた時に手伝っていただいている。		